

## 『百人一首』のハンガリー語訳注作成について

日本学術振興会外国人特別研究員・大阪大学日本語日本文化教育センター招聘研究員  
フィットレル・アーロン

### 1. 訳注の題名、刊行予定時期

- *Száz költő egy-egy verse* (百人の詩人の一首一首の詩)
- 2021 年 5 月末ごろ刊行予定

### 2. 想定する読者層

ハンガリー語という、わずか 1 千万人余りの人が母語とする言語の翻訳であるため、なるべく広い読者層を対象としたい。

要するに、日本文学、日本、日本の歴史、伝統文化、一般的に世界文学、詩歌に興味がある読者を想定する。その他、大学の日本学専攻において教材として使用されること、大学生が参考にすることも期待している。これほど広い読者層を対象とすると、さまざまなことに配慮しなければならないのであるが、情報のバランスをとることに気をつかう必要がある。

### 3. 訳注の構成と内容

#### 3.1. 一首の和歌を紹介する部分の構成と内容

長さを 4 頁以内に限定する (B5 サイズの用紙)。

- 和歌：原文 (日本文学 Web 図書館所収『新編国歌大観』の本文であるが、適宜表記を改めた)、原文の 5 行に分けたローマ字表記 (ハンガリー語の綴り)、ハンガリー語訳 (5 行形式、5-7-5-7-7 の 31 音節)  
かるたの読み札：吉海直人先生ご所持の紙かた (1700 年ごろ成立) の画像
- 語釈：和歌の理解に不可欠な情報 (地名や歌語の意味、修辞法などの簡潔な説明) に限定する。
- 歌人の略伝：当該歌人の活躍、『百人一首』の他



の人物との関係、歌人として重要であったのか、場合によってその人物に関わる興味深い逸話など

- 出典（勅撰集）とそこの詞書
- 鑑賞、説明：当該歌の見所、鑑賞のポイント、表現の特徴、表現的な特殊性、歌に関わる逸話、当該歌の受容、解釈の変遷などについてまとめる。

本歌取り歌の場合は本歌、贈答である場合は対になっている歌も翻訳し、他の作品、たとえば『源氏物語』との関連、定家による新解釈について言及する。

### 3.2. 本全体の構成と内容

最初に二つの解説を書く。一つは日本の古典和歌の特徴や本質、定家の時代までの和歌史、和歌の日常生活での役割などについてで、もう一つは『百人一首』という秀歌撰自体（成立、特色、受容など）についての紹介となる。

その次に、100首を紹介する部分が続く。

最後に付録を設け、理解を深めるため、当時の年中行事、時間区分、人間関係の理解に必要な家系図、貴族の官職についての説明などを図にまとめ、歌枕地図と和歌関連書の概略を付ける。

### 4. 参照する主な注釈書や研究書

- 島津忠夫訳注『百人一首』（角川書店、1973）
- 島津忠夫・上条彰次編『百人一首古注抄』（和泉書院、1982）
- 有吉保全訳注『百人一首』（講談社、1983）
- 吉海直人『百人一首の新考察』（世界思想社、1993）
- 吉海直人『百人一首の新研究—定家の再解釈論—』（和泉書院、2001）
- 吉海直人『百人一首で読み解く平安時代』（角川学芸出版、2012）
- 長谷川哲夫『百人一首私注』（風間書房、2015）
- 吉海直人『百人一首の正体』（角川ソフィア文庫、2016）
- 吉海直人『読んで楽しむ百人一首』（角川書店、2017）

### 5. 訳注作成の手順

翻訳と歌の紹介は1人50首で分担しており、解説と付録の資料の作成も半分に分けて分担しているが、意見交換をし、完成版になるのは二人とも承諾した内容である。

## 6. 和歌表現の伝達について

『百人一首』には特殊な表現、平安時代に成立した歌の場合、当時普及していない表現を用いるものが多く入集している。翻訳の際、それぞれの表現の統一、また他の表現との区別に特に注意する必要がある。表現の統一の一例をあげておく。

### 【参議篁 (11)】

わたのはらやそしまかけてこぎ出でぬと人にはつげよあまのつり舟

Tenger mezeje:

számtalan szigetén túl

messze hajóztam.

Juttasd el nekik e hírt

kérlek, te halászbárka.

海の原。

多くの島を超えて

遠く漕いできた。

彼らにこの便りを伝えて

おくれ、釣り船よ。

(カーロイ・オルショヤ訳)

### 【法性寺入道前関白太政大臣 (76)】

わたのはらこぎいでてみれば久かたの雲井にまよふおきつしら浪

Tenger mezeje.

Kihajózok, s elnézem:

végtelen messzi

fellegekben vesznek el

hófehér hullámfodrok.

海の原。

漕ぎ出て眺める。

果てしなく遠い

雲に見失われる、

真っ白な波が。

(フィットレル・アーロン訳)